

書部門審査評

コロナ禍もようやく一段落し、各地の展覧会も次第に活況を取り戻してまいりました。今年の書部門は、昨年とほぼ同数の応募があり、総出品数は140点(漢字91点、かな18点、調和体26点、篆刻5点)でした。うち入選作品は100点となりました。

審査は吉川美恵子先生、加藤子華先生とともにジャンル毎に進めてまいりました。私は三重県の審査には初めて参加させて頂きましたが、漢字の割合が比較的多く、仮名と篆刻の作品が少なめとなっています。しかし、いずれにせよ日頃からの研鑽の跡が窺える力作揃いで、入落の決定には迷うことも屢々ありました。

入賞された9点は、3人の審査員いずれもが納得した優品です。筆力の強さ、結構の工夫、運筆の流麗さ、章法の面白さ、墨量の変化など、それぞれに特徴を備えた、個性あふれる出来映えを見せています。展覧会に来場された方々には、書の多様な表現を感じ取って、楽しんで頂ければ幸いです。

書部門審査任

弓野隆之